

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

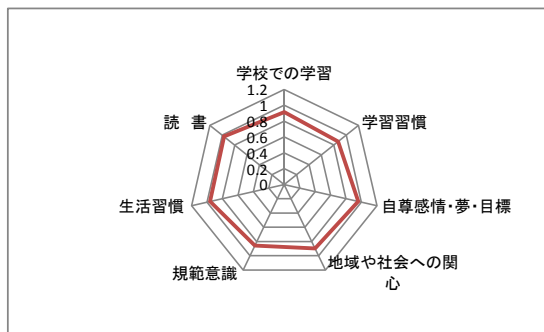
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・日常的に自分の考えなど文字を書く習慣をつけさせたい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	手紙の構成を理解し、後付けを書く問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・日常的に読書習慣をつけることにより、さらに力がつくと思われる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	物語を読み、具体的な叙述を基に、理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題は、無回答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・小数を含んだ四則計算や資料を二次元表に分類整理する問題に多く取り組ませる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	数量や図形についての技能は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・応用問題に対しても、最後まであきらめずに問題を解いている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自学についての取組は、各学級で行っているが、計画的に見通しをもって弱点を克服する取組となっている児童の数は少ない。 ・読書については、読書ボランティアの方々の読み聞かせや、学校図書館職員による図書室の環境整備などからも、よい影響を受けていると考えられる。 ・挨拶を進んでしたり、学校のルールを守ったりする等、生活規律の意識が高い子どもが多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめ、相手に分かりやすく伝える活動を子どもの発達段階に応じて学習活動の中に位置付ける。 ・全国学力学習状況調査(6年)や、北九州市学力学習状況調査(4・5年)、観点別学習状況調査(1～3年)へ向けての過去問題を継続的に取り入れたり、アシストシートを活用したりする。アシストシート…国語・算数補助プリント ・学び方を学ぶことや、基礎的・基本的な内容のさらなる定着に向け、『読む・考える・書く・発表(表現)する』学習活動を丁寧に進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法について保護者会等、機会を捉えて説明しながら家庭と学校が協力して取り組む。 ・自学ノートや宿題について担任等が丁寧に点検し、価値付けながら進んで取り組む意欲をさらに高めていくようにする。 ・自学ノートを校内掲示して、価値を認めるとともに、工夫していることを共有したり模倣したりできるようにする。
--